

東京湾海況情報 13 - 21

貧酸素水塊動向調査結果(3月25日分)
東京湾の水温・塩分分布12か月分(表層・底層)

平成14年3月28日
千葉県水産研究センター 富津研究所
〒293-0042 富津市小久保3091
0439-65-3071 FAX 0439-65-3072
E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.jp

資料：水質調査 3/25 東京内湾：わかふさ
七四郎丸・ふさなみ観測資料，一都三県漁海況速報，東京湾口海況図

貧酸素水塊動向調査結果(3月25日観測分)

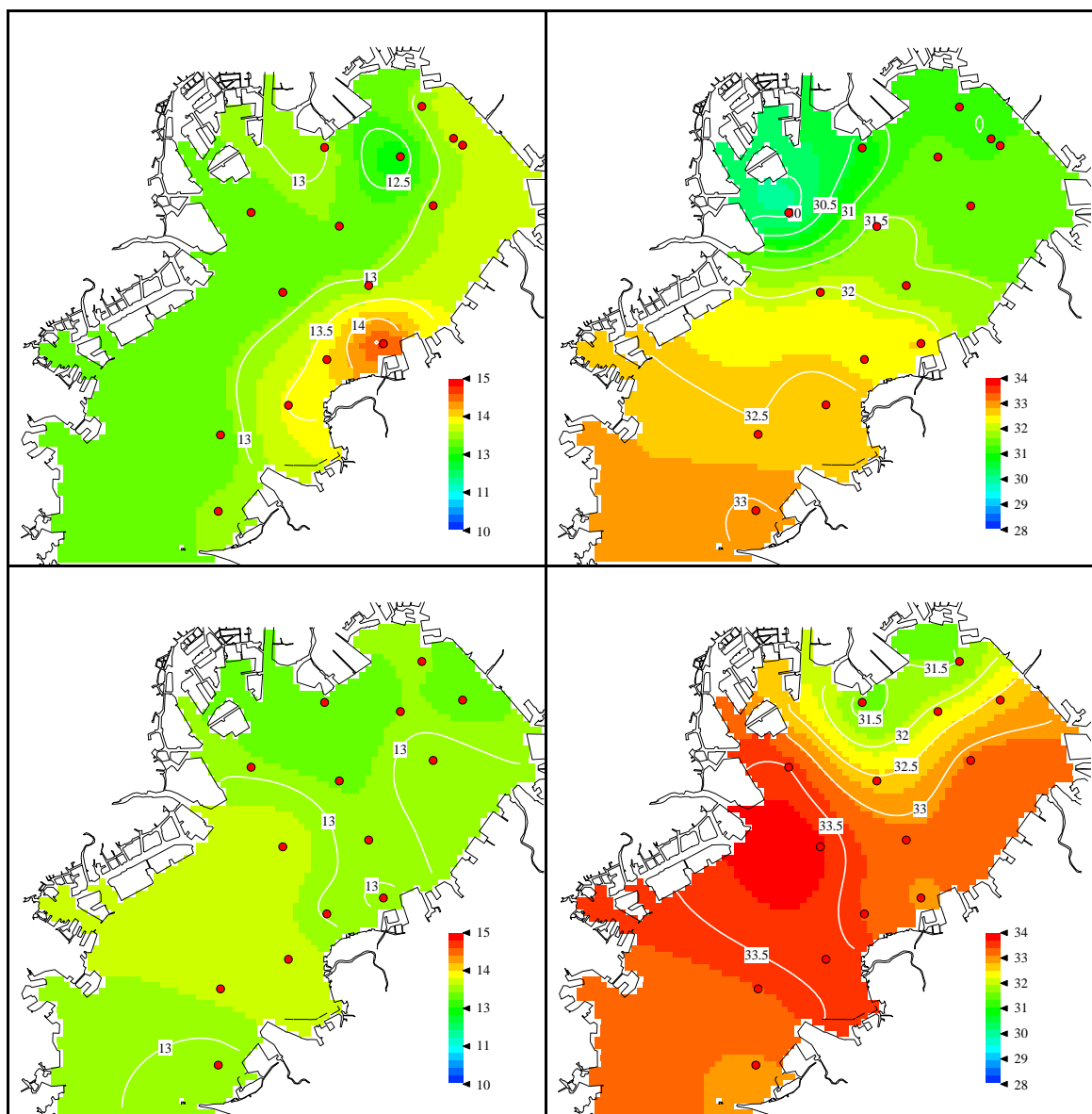


図1 表層・底層の水温・塩分分布

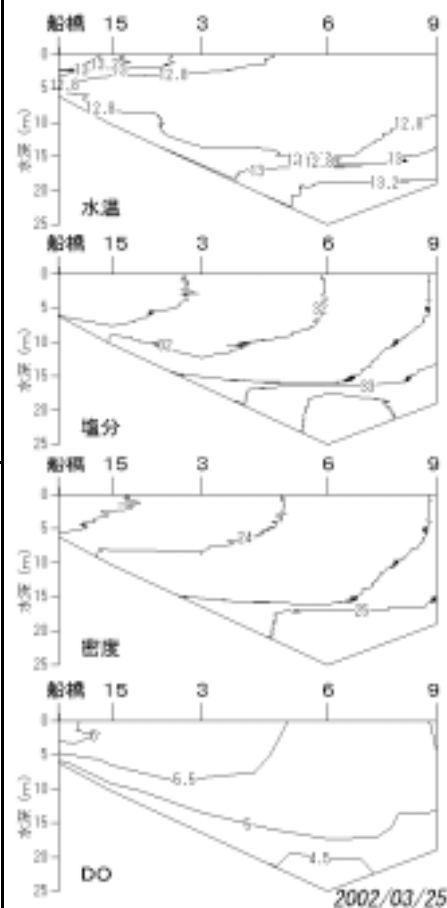


図2 内湾縦断面の鉛直分布

水温・塩分の状況(図1~2,表1)

水温は表層で12~14℃,底層で12~13℃,塩分は表層で29~33,底層で31~33でした。内湾縦断面の鉛直分布では水温12~13℃,塩分31~33でした。

赤潮の状況(図3,表1)

今回の調査でも赤潮の発生はみられませんでした。植物プランクトンの量の指標となるクロロフィルa量も1桁~10µg/L台と低い水準です。やや多い船橋付近での主なプランクトンは珪藻のキートケロス(Chaetoceros sp.)とリゾソレニア(Rhizosolenia setigera)でした。

栄養塩類の量が少ないことから,今後すぐに赤潮傾向になることはないでしょう。

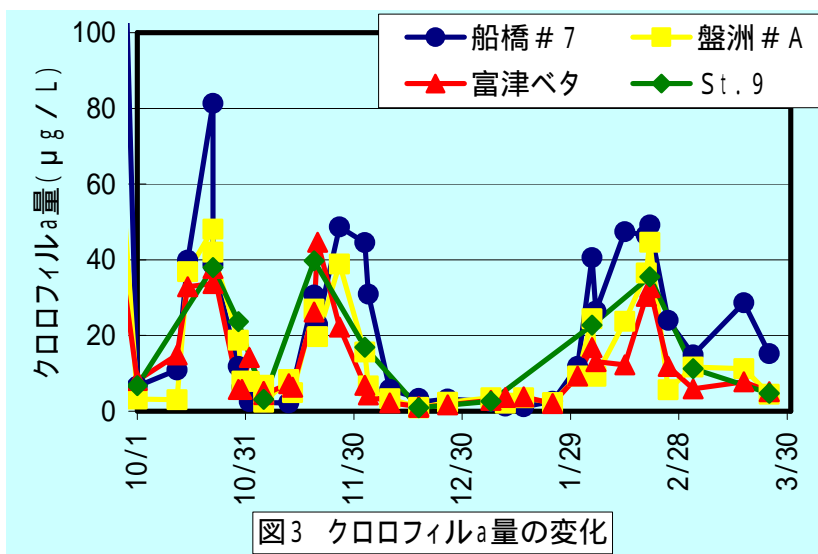


図3 クロロフィルa量の変化

貧酸素水塊の状況 (図2, 4, 表1)

3月4日の調査で確認されていた内湾の貧酸素水塊は解消していました。

ただし湾奥の深掘部(st. 5 1)の底層(水深26m)ではほぼ無酸素まで溶存酸素量が低下しています(0.2 ml/L)。千葉北部で小規模に発生する青潮の一部は深掘部の無酸素水によるものだといわれています。今後は気象の変化などに注意してください。

表層の栄養塩類 (図5, 表1)

溶存無機態窒素(DIN)は300~500 μg/L台, リン酸態リン(PO4-P)は1桁~10 μg/L台です。依然として内湾ではリン酸態リンの不足が続いています。

東京湾ではDINが100 μg/L, PO4-Pが12.5 μg/Lを下回るとのりの色落ちになるといわれています。

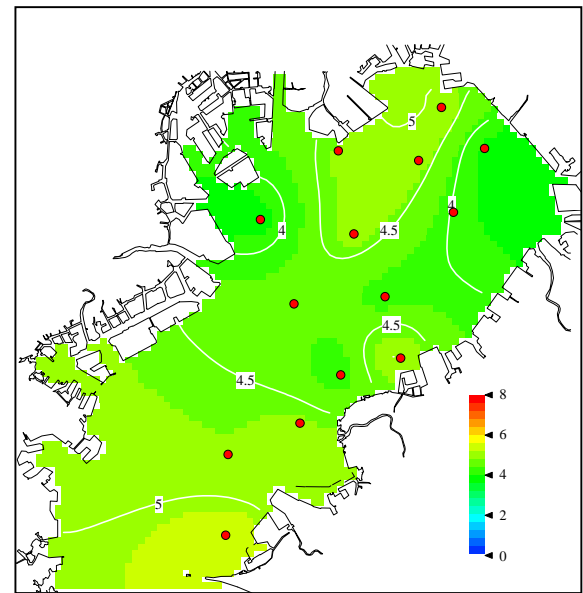


図4 底層の溶存酸素量分布 (ml/L)

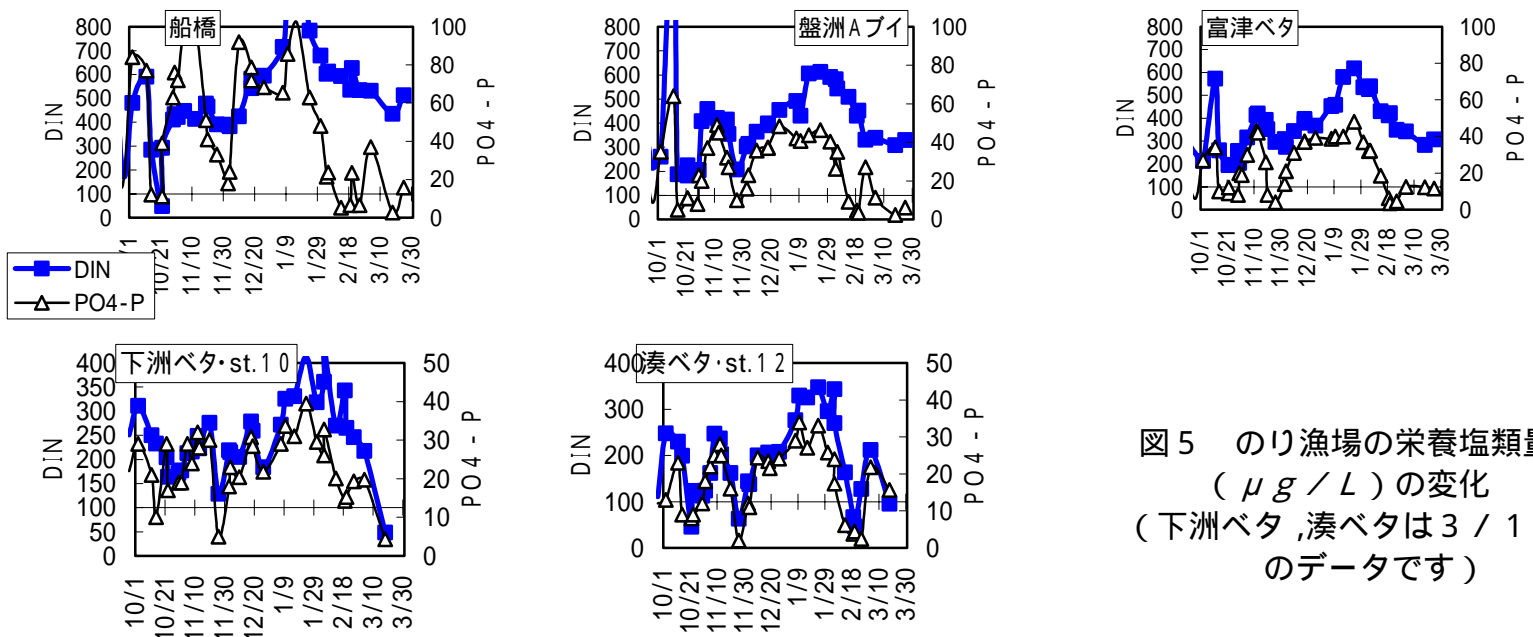


図5 のり漁場の栄養塩類量 (μg/L) の変化 (下洲ベタ, 湊ベタは3/18までのデータです)

表1. 水質調査結果(表層)

調査年月日: 平成14年3月25日

調査点	透明度	pH	水温	塩分	クロロフィルa量 (μg/L)	底層のDO(ml/L)	溶存無機態窒素 (μg/L)	リン酸態リン (μg/L)
船橋	2.8	8.3	13.1	31.05	15.2	4.9	513	16
St. 15	3.5	8.3	13.2	31.27	4.0	4.8	520	16
st. 3	3.5	8.3	12.9	31.56	5.4	4.7	511	15
St. 6	4.7	8.3	12.7	32.02	3.3	4.4	446	11
St. 9	5.5	8.2	12.8	32.54	4.8	4.7	371	8
盤洲Cブイ	4.1	8.2	14.5	32.43	5.7	5.0	385	10
盤洲Bブイ	4.0	8.2	13.6	32.35	5.9	4.1	381	7
St. 8 (盤洲Aブ)	4.7	8.2	13.5	32.60	4.5	4.7	329	6
富津ベタ	3.0	8.1	12.9	33.03	5.2	5.2	307	12

今年度の東京湾海況情報は今回で終了させていただきます。来年度もよろしくお願いいたします。参考資料として「東京湾の水温・塩分分布12か月分(表層・底層)」をつけました。